

## &lt; 修士論文要旨 &gt;

JAITS

論文題目：英日対照役割語研究 — 戯曲 *Black Comedy* にみられる 男ことば・女ことば—

(英文題目：Role Language in English and Japanese: Gender Characterization in Peter Shaffer's *Black Comedy*)

提出者：河西 由香

授与機関：東京外国語大学

取得学位の名称：修士(言語学)

学位取得の方法：課程

取得年月日：2014年3月26日

## 英文要旨

This paper considers role language in English and Japanese: namely the gender-specific characteristics used in *Black Comedy*, a British theatrical play written by Peter Shaffer. The paper addresses the following three research questions: (1) In which speaker or situation do men's role language and women's role language appear? (2) Are there any similar characteristics between English and Japanese gender-specific languages in terms of usage? (3) How are characters portrayed through the use of role language in the Japanese translation of *Black Comedy*?

This paper consists of three sections: prior research, script analysis, and audience perception survey. Prior research on role language, gender-specific characteristics in English and Japanese, and contrastive studies on role language are introduced in chapters 2, 3, and 4 respectively. In order to analyze men's and women's language in *Black Comedy*, vocabulary and lexical features were extracted from the English and Japanese scripts. The analysis was based on characteristics of masculine and feminine speech suggested by Lakoff (1975), Arai (1997), Okamoto (2010), and Masuoka and Takubo (1992).

The script analysis results in chapter 5 reveal that, despite the linguistic difference between Japanese and English, both scripts aimed to form the same character image through gender-specific role language. Yet, it was easier in the Japanese translation than in the English original to identify strongly masculine or feminine features of role language. This research also discovered unique features such as ellipsis and the suffix “-pegs”, which were used by specific characters and contributed to establishing their characteristics and image in the story. Feminine features used by a homosexual male character vividly show how language could be “worn like a mask”, through which the speaker can project certain images

---

Kasai, Yuka., "Role Language in English and Japanese: Gender Characterization in Peter Shaffer's *Black Comedy*", *Interpreting and Translation Studies*, No.14, 2014. pages 309-312. © by the Japan Association for Interpreting and Translation Studies.

to others.

In the audience perception survey, native speakers of English responded to the English version, while the Japanese version was judged by native speakers of Japanese. The survey results in chapter 6 show that it was easier for native speakers of Japanese to judge whether the lines are spoken by a male or female character. Thus, it can be inferred that a speaker's image can easily be clarified by using role language, especially in Japanese, and that role language might render the character's image described in the source language (ST).

Finally, in order to avoid mistranslation, this paper suggests the importance of understanding the role language used in the ST and the target language (TL).

### 和文要旨

本稿は、英語と日本語における役割語、特に性差を示す言葉づかいにはどのようなものがあるかを示したうえで、戯曲のスク립トを題材に実際にどのような場面で、どの登場人物に対して用いられているかを分析するものである。役割語が台詞に用いられることにより、読み手は台詞の話し手に対して特定の性別やイメージを抱く。翻訳作品の場合、果たしてそのイメージは英語の原作と日本語訳とでは同じなのだろうか。その疑問に答えるために、スク립ト分析に加え、役割語によってもたらされる話し手のイメージに関するアンケート調査を実施した。

本研究では、役割語のなかでも男ことば・女ことばを示す性差マーカーに焦点をあてたうえで、以下の3つのリサーチ・クエスチョンに答えることを目的とした。

RQ1: 役割語（特に男ことば・女ことば）は、英日両スク립トのどのような場面や人物の発話で使用されているか

RQ2: 英日両スク립トで使用される役割語の使用用途に、ずれ・類似する特徴は観察されるか

RQ3: 英日スク립ト間で、役割語の話し手に対するイメージの違いは観察されるか

まずは、第2章において本論文の研究対象である役割語の定義<sup>1</sup>を示した上で、英日の男ことば・女ことばに関する研究、および複数言語における役割語を比較した対照役割語研究の事例を第3章、第4章で紹介した。性別・出身地・階級・人種など、特定の特徴を持った人物に対するステレオタイプから生じる役割語は、話し手をどのような人間として相手に見せたいかという選択に応じて、仮面のように使用することができる。金水(2003)や中村(2007, 2013)に基づき、本稿では自らが使用する言語によって自分のアイデンティティを作り上げるという「言語資源」という考え方を基本とした。さらに、男女の言葉遣いの違いを対極的で絶対的な違いとするのではなく、任(2009)が述べるように男性性・女性性の程度の差で示すことができるような連続的かつ相対的な違いであると考えた。

続いて、第5章のスク립ト分析では、Black Comedyの英日両スク립トより、語彙

的・統語的な特徴のみを分析対象とした。英語の性差の特徴は Lakoff (1975) および新井 (1997) を、日本語における特徴は岡本 (2010)、益岡・田窪 (1992) などが挙げた項目を採用した。その結果、英語に比べて日本語の方が、特定の性別に使用される性差マーカーが明確であることがわかった。例えば、先行研究から男性性が強いとされている代名詞「おれ」「ぼく」、終助詞「ぜ」「ぞ」は 100%男性登場人物の台詞に用いられており、女性性が強い終助詞「かしら」「～て、なくて」は女性登場人物の台詞のみに用いられるなど、性別による言葉づかいの特徴がはっきりと示された。両言語の文法的な違いから、ある役割語的特徴を示すために用いられる語彙的・統語的要素が異なる場面もあったが、最終的に表現しようとしている話し手のイメージは同じであることが示唆された。特に英語では、省略形や指小辞 “-pegs” のように、特定の登場人物に限定して使用されている特徴が見受けられた。さらに、「ホモ的などころのある」という人物描写がなされている男性登場人物の台詞には、Lakoff (1975) が示した女性性の強い言葉遣いの特徴が使用されるなど、性差を有標化した事例も観察された。両言語を通じて、男性性・女性性が強い役割語、あるいは特定の登場人物に限定して使われている役割語度の強い特徴は、話し手の役割を強調したい場面で意図的に、わざとらしく使用されることがわかった。さらに、金水 (2003) がボグラー・マッケナ (2013) の「ヒーローの旅」を例に述べているように、特徴的な言葉遣いをする人物には物語の中で特定の役割が与えられていることも明らかになった。

上記のSCRIPT分析に加えて、第6章では *Black Comedy* の各登場人物の台詞を抜き、台詞の話し手に対してどのようなイメージを持つかを検証するアンケート調査を実施した。英語SCRIPTは英語母語話者に、日本語SCRIPTは日本語母語話者に読んでもらい、回答を収集した結果、英語よりも日本語の方が台詞の話し手の性別を特定しやすいことが示された。本研究により、英語の原文を読んだだけでは年齢や性別を特定しにくい台詞に関しても、日本語訳に役割語を用いることで話し手のイメージ像が明確化され、時には読者が話し手に抱くイメージが原作と大きく変化する可能性があることが示唆された。

.....

**【著者紹介】**

河西由香 (KASAI, Yuka) 2013年3月東京外国語大学外国語学部英語専攻卒業。2014年3月東京外国語大学大学院 国際コミュニケーション・通訳専修コースにおいて修士課程修了。

.....

**【註】**

- 1 特定のキャラクターと結びつき、物語の中でその登場人物が果たしている動き(役割)を示す特徴的な言葉づかいを役割語と呼ぶ (金水, 2003: vi)。

【基本文献】

- Shaffer, P. (1965). *Black Comedy*. Guernsey, O. L. (Ed.) (1967). *The Best Plays of 1966-1967*. New York: Dodd Mead.
- シェーファー, P. (1982) 『ブラック・コメディ』(倉橋健・訳) 劇書房

【参考文献】(本稿への引用文献のみ)

- Lakoff, R. (1975). *Language and Woman's Place*. New York: Harper and Row.
- 新井潤美 (1997) 「英語の女言葉 ジェンダーと敬語」川本皓嗣・井上健(編)『翻訳の方法』東京大学出版会
- 金水敏 (2003) 『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店
- 益岡隆志・田窪行則 (1992) 『基礎日本語文法』(改訂版) くろしお出版
- 中村桃子 (2007) 『“性”と日本語—ことばがつくる女と男』NHK ブックス
- 中村桃子 (2013) 『翻訳がつくる日本語—ヒロインは「女ことば」を話し続ける』白澤社
- 任利 (2009) 『「女ことば」は女が使うのかしら?—ことばにみる性差の様相』ひつじ書房
- 岡本成子 (2010) 「若い女性の「男ことば」—言葉づかいとアイデンティティ」中村桃子(編)『ジェンダーで学ぶ言語学』(pp. 129-144) 世界思想社
- ボグラウ, C.・マッケナ, D. (2013) 『物語の法則 強い物語とキャラを作れるハリウッド式創作術』(府川由美恵・訳) アスキー・メディアワークス [原著: Vogler, C., & McKenna, D. (2011). *Memo from the Story Department: Secrets of Structure and Character*. Studio City, CA: Michael Wiese Productions. ]